

火事は おまかせ

— 市民を守る新型消防車配備 —

三月三十一日、地元八幡西消防団第二分団に十六年ぶりに新型の消防車が配備され、岡田宮で入魂式が執り行われました。

当日は、片田一夫後援会会長をはじめ、郷田陽一分団長以下二十六名の団員、関係者が多数参拝されて、地元の防災、団員の安全及び車輛の無事故を祈願されました。

団員のご活躍を祈念致します。



岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

第 22 号

平成8年11月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番1号

郵便番号 806

電話 (093) 621-1898

FAX (093) 621-5330

岡田宮えびす祭



町上津役西に八兄小

今年も十二月三日の午後六時三十分より家内安全、商売繁昌の神様である、えびす様の御座が執り行われます。

地元商店街有志の方々より、ステキな景品が奉納されますので、奮ってご参拜下さい。

日時 十二月三日

午後六時 開場
午後六時半 神事
午後七時 福引

御座券は一枚三、〇〇〇円です。岡田宮社務所で頒布しています。

郷土地名考 ②②

金剛 (こんごう)

北九州市高速道路馬場山インターを降りたところが金剛。大字金剛と金剛一、二、三丁目。金剛山に由来している。

そのふもと剛の谷に昔、金剛寺という大寺が栄えたときがあった。大友の乱のときとも言いが、いつの頃かこの寺に盗賊が押し入り略奪、その上多勢の稚児を殺したり捕らえて逃げた。それを追いつちにして埋めたところを児が原(ちごがはら)と呼んでいる。

北九州市高速道の横に乳児原池の上池、下池があり、下池のそばに盗賊が殺した稚児八人を祭る地藏堂がある。稚児が原地蔵といひ、子供の病気に霊験あらたかとされ、今でも香煙が絶えない。口碑による幼児誘拐事件は実際にあったのだから。

八兄中がある。八人の兄ということでは兄が原伝承によく似ているが、こっちの八(ヤチ)は谷地で低湿地、児(ゴ)は郷または合、即ち谷地郷らしい。転訛の過程で兄が原伝承が影を落とすとしたと考える。

木屋の瀬 (こやのせ)

和名抄に遠賀郡木夜瀬とあるのが初見。連歌師・宗祇の筑紫道記は「こやの関(木屋瀬)といふ所にして草の枕を結ぶ」と記した。

ドイツの医師、シーボルト「江戸参府紀行」では一八二六年二月二〇日「それから直方付近で同じ名前の川を渡り、夜更けて木屋瀬に着いた」とある。

下って吉田松陰も「西遊日記」一八五〇年(嘉永三)八月三〇日に「晴。黒崎を発し木屋瀬に至る」と書いている。筑前と豊前を結ぶ木屋の瀬は交通の要衝だったわけだ。

地名のいわれは中世、穂波郡の天台宗・明屋寺を再興するため豊後の臼杵から材木を運んだとき、遠賀川の途中に小屋を作って入れて置いたところが木屋の瀬というのだが、初めに木夜郷がある以上、付会の説とも言える。私見だが木夜はコマ(高麗)の転訛、木夜の関⇨木屋の瀬につづまったのであろう。

心

第一歩

十里の旅の第一歩
百里の旅の第一歩
同じ一歩でも 覚悟がちがう
三笠山にのぼる第一歩
富士山にのぼる第一歩
同じ一歩でも 覚悟がちがう
どこまで行くつもりか
どこまでのぼるつもりか
目標が その日その日を支配する

今のままで

おまえは たしかに生まれた
何のために 生まれたのか
おまえは たしかに生きている
何をすればよいのか
おまえは たしかに死ぬ
今のままで 死んでもよいのか

これがために

たしかに生まれた 必要なからだ
たしかに生きている
まだ用事があるからだ
「われこれのために生まれたり」
はつきりと その言いうるものを
つかんだか

神社 なぜ 問答

(その22)



Q 最近引越して来たので、どの神社が氏神さまかわからないのですが。また引越した場合、お神札は受けなおすのでしょうか。

A 引越した場合、氏神さまは新しい地域の神社になります。どこの神社が氏神さまかわからないときには、町内会の役員などに尋ねたり、近くの神社へ出向いて神職に確かめてみましょう。お神札は新しい氏神さまから受けて神棚にお納めし、前の氏神さまのお神札もその年が終わるまでは一緒にお祀りしましょう。



また、前の氏神さまにも常に感謝の気持ちをもち続けたいものです。



Q 氏神さま以外の神社にはお参りしなくてもよいのでしょうか。

A 日本には約八万もの神社が祀られています。なかでも、皇室の御祖神であられます天照大御神さまをお祀りする伊勢の神宮は日本の総氏神といわれ、たくさんの人々がお参りに訪れます。このように人々は折にふれて、全国のさまざまなお神社にお参りしています。また、故郷を離れて生活をしている人は、帰省の折り故郷の神社にお参りしてはいかがでしょうか。ふだん氏神さまにお参りした上で、伊勢の神宮さらに他の神社(崇敬神社)にもお参りしましょう。

編集部より 神社や神道のことについて、御質問をお寄せ下さい。

御質問は一項目とし、五十文字以内でお願いします。神社本庁教学研究所の協力で答えします。

質問者名は出しませんが、お名前、連絡先をお忘れなく。

岡田宮と厄除

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、「人生の折目」だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りのある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましょう。北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。

皆様方おそらいで御参拝下さいませ。様御案内申し上げます。

平成九年の厄年

厄年(男)

二十四才 前厄 昭和四十九年生
二十五才 大厄 四十八年生
二十六才 後厄 四十七年生

四十一才 前厄 三十二年生
四十二才 大厄 三十一年生
四十三才 後厄 三十年生

六十才 前厄 十三年生
六十一才 大厄 十二年生
六十二才 後厄 十一年生

厄年(女)

十八才 前厄 昭和五十五年生
十九才 大厄 五十四年生
二十才 後厄 五十三年生

三十二才 前厄 四十一年生
三十三才 大厄 四十年生
三十四才 後厄 三十九年生

三十六才 前厄 三十七年生
三十七才 大厄 三十六年生
三十八才 後厄 三十五年生

※年齢はかぞえ年です。

● 厄年大祭 二月節分日

